Zipline

ルワンダ（アフリカ）

ドローン技術を活用した医療用物資のオンデマンドデリバリー

3 すべての人に健康と福祉を
9 産業と技術革新の基盤をつくろう
17 パートナーシップで目標を達成しよう

無人で最短距離を飛ぶことのできるドローン技術は様々な分野で応用されつつある。途上国の医療分野に先進的なドローン技術を活用した本事例は、モノを運ぶ技術が、人の命を救うインパクトを出せることを鮮やかに示している。

背景にある社会課題

- ルワンダでは脆弱なインフラのため、輸血が手配できずに命を落とす患者が多い。
- 妊産婦死亡率は西欧の97倍にあたり、その26%は出血によるものである。

ビジネスモデルと製品の特徴

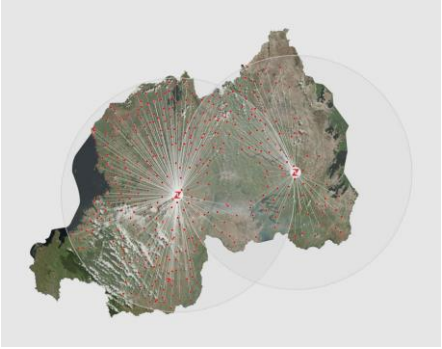
- ドローンによる血液や医療用物資のオンデマンドデリバリーサービスを提供。車では4時間かかる距離でも、ドローンは15分で届けることができる。
- 航続距離150km、悪天候でも安定して1.5kgの荷物を運ぶことのできる技術を保有している。

SDGビジネスへのアプローチ

- ドローン技術のポテンシャルを活かせる国を選定している。ルワンダは国土が狭く、首都を拠点とするドローンにより国土の半分がカバーできる。将来の複数国での展開を目指すにあたり、モデルケースとして成功しやすい土地が選ばれている。
- 医療分野という、社会的ニーズが高く、事業面でも「継続的に、高付加価値で、ニッチな製品」が必要とされる分野を選定している。
- 荒天の場合でも長時間の安定した飛行を可能したり、テキストメッセージで注文を受け付けるなど、現地国に合わせた技術開発。
- 規制の多い分野に参入するにあたり、現地政府と良好な協力関係を築いている。

SDGsへのインパクト

- ルワンダでは首都キガリ以外の地域の血液供給の75%以上を同社ドローンが輸送している。
- 医療施設が余剰在庫を抱える必要がなくなり、期限切れなどによる輸血用血液の廃棄がほぼゼロになった。



成功のポイント

❶ ドローン技術を活用する上で**インパクトを出しやすい条件を備えた国と分野**を選定している
❷ 現地の**ビジネス慣習や気象条件などに合わせた技術・サービスの展開**をしている
❸ **現地政府と協力関係**を築き、**パートナーシップで課題解決**にあたっている